F—6 女子短大生に関する意識調査（第２報）—家政科学生の勉学への取組み—

岡山就実短大　東福子

目的　女子にとって短大に学ぶことが、かなり一般化しつつある現時点において、本学学生を対象に、大学生活・就職・結婚・価値観・余暇・家庭生活について意識調査を行ない、第１報においては諸調査資料と比較検討しながら概観した。本報ではとくに家政科学生の勉学についての意識を、他学科及び他学の学生との比較や、実態との関連づけにおいて考察し、今後の短大家庭科教育の方向と課題を見出そうとした。

方法　調査対象---昭和52年度生533名（国文・英文・家政・幼児教育科を含む），家政科53年度生135名，公立女子短大家政科53年度生80名，家政科52年度生両親392名。調査方法---質問紙による集団面接法及び配布届出法。調査期間---昭和53年12月～54年１月，昭和54年６月。集計方法---単純集計及びクロス集計。別に実態調査として、生活時間調査，学科目別履修状況，図書館利用状況などについての調査を併せて実施した。

結果

1. 進学を考え始めた時期，進学希望理由では学科間に意識の差異が認められ、家政科学生にはやや意思決定の遅れ、目的意識の薄弱さ、進学動機のあいまいさが感じられた。
2. 学科・学力・通学距離に重点をおいて、無理なく大学選択をしているが、学費の点では公私立間に顕著な意識差が感じられた。
3. 殆んどの学生が第１志望学科として家政科を志向し、満足度はかなり高い。
4. 平日はNHK調査より多い勉強時間（5:43）を持つが、自主的学習に欠ける傾向が、授業外学習時間（1:25），科目選択状況，図書館利用度などからうかがえる。